

## 第4回 幼・保・小合同研修会

と き 令和2年9月11日（金）午後3時～午後4時30分

ところ 郡山市総合福祉センター5階集会室

### 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」

～生活科における学びと幼小連携～

講師：国学院大学人間開発学部初等教育学科 教授 田村 学 先生

講師の田村先生は、2017年より文部科学省初等中等局視学委員を務められ、新学習指導要領の改訂にも携わってこられました。現在は、国学院大学人間開発学部初等教育学科教授として、生活科・総合的な学習の時間の指導法を専門に、学生の指導にあたられています。

第4回の合同研修会では、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」をテーマに教育講演をいただきました。今回も、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、オンラインによる研修会となりました。多くの映像を使って、やさしい言葉でお話しして下さったのでわかりやすいと好評でした。

#### 【指導要領改訂の背景】

- PISAの結果をみると、平均得点は高くなっているが、自己評価が低い。
- 算数・理科の学習では学習の楽しさ、実社会との関連で肯定感が低い。
- 規範意識が低く、21世紀の社会の変化に対応できる力の育成が求められている。

#### 【幼児教育のポイント】

- 資質・能力の3つの柱は、遊びを通しての総合的な指導を行う中で一体的に育てる。

#### 【資質・能力の育成とアクティブラーニング】

- アクティブラーニングの3つの視点を明確にすることで、指導過程の質的な改善を図ることができる。
- 資質・能力は相互に関連しており、一方通行ではない。

#### 【遊びと学び】

- 幼児期の遊びは、将来にわたる重要な役割を持っている。

#### 【深い学び】

- 知識・技能を関連づけることであり、幼児期には遊びを通して、小学校においては言葉を通して行われる。

#### 【深い学びを見取る力】

- 「深い学び」を見取るためには、時間、空間、規準の3つの軸に照らして、手応え感覚（充実感、達成感、自己有能感、一体感といったポジティブな感情）を育てていくことが大切である。
- 学習活動における充実感などの手応えが、好奇心、自立的欲求、向社会的欲求の動機付けになり、学習活動の質を高める。資質・能力・態度の育成は、この積み重ねである。
- 幼児期の教育の仕方を小学校以降も取り入れることが必要である。

#### 【自信を育てること】

- ポジティブな感情を育て、資質・能力・態度の育成に努めることで、子どもたちは自信が持てるようになる。
- 自信は、自己信頼と他者承認の2つからできており、年齢が高くなるにつれて他者承認の方が大きくなる。自己信頼は没頭的活動に、他者承認は達成型活動になる。



#### 【アンケートから】

- ・ 体験の価値、体験の重要性が改めてよくわかった。また、感覚の育成が能力成長の基礎になることがよくわかった。小学校では、まだまだ体験的な活動が不足しているように感じる。もっとどっぷりと体験や遊びに浸らせてあげたいと思う。（小学校）
- ・ 講演を聞いて、将来活躍できるように、学びの基礎を育てる幼児期に関わりを持つ専門職として、子ども中心の意識へ変えていかなければならないことを再確認することができた。（保育所）
- ・ 幼保の土台があって小中高へつながっていくことの大切さ、改めて、幼保での遊びや体験が将来へのつながりになることを学ばせてもらった。（保育所）